

【はちどり事例集② 電車の車掌に憧れる 30 代男性 B さんのケース】



＜ある日のはちどり会議にて＞

就労移行支援事業所の職員です。

発達障害と軽度知的障害の 30 代男性 B さんの件で相談をお願いします。

不安感が強く、新しい環境や慣れないことをする時に、抵抗感を強く持つ方です。就職のための見学や実習は緊張から腹痛になることもあります。

電車が好きで、様々な知識があり、車掌さんに憧れを持っていらっしゃいます。ご本人の強みを活かした就労をするために、何ができるでしょうか。



就労支援機関

「好き」や「興味」を活かしたいですが、実際車掌になるのは大変ですよね…



福祉事業所

駅構内のコンビニでの就労や電車の清掃員などでも、好きな電車が目に入ってやりがいを持てるかもしれませんね。ご本人にとって、不安感の少ない形で折り合いをつけられたらよいのではないのでしょうか。

そうか… ご本人の希望を 100%叶えるのは難しくても、好きなものの近くで働くことで、その方の強化子になることもあるのですね。



教育機関

就労移行は、2 年間という期限があるから難しいですよね。

ただ、短い期間で焦って探すより、福祉就労も含めてじっくり考えてみてほしいのではないのでしょうか。

確かに、私たち支援者側が、「2 年間で就職を決めないといけない」という焦りを持ってしまっていたような気がします。
ご本人に合う環境をじっくり探すことを大事にしていきたいと思いました。

【はちどり事例集② 電車の車掌に憧れる 30 代男性 B さんのケース】

＜はちどり会議後、就労移行支援事業所にて＞

事業所で取り組んだ支援内容	それによる変化・効果
事業所内実習を実施し、アセスメントを行った	●就職活動の方向性や、就職後の配慮事項など、検討材料が 整理 できた ●アセスメントにより、B さんの課題（業務の遂行度、報連相、体調管理）、強み（確認する力、まじめに取り組める力）を 知ることができた
アセスメントの結果について、ご本人へフィードバックを行った	●客観的な内容のフィードバックだったため、ご本人も、自身の得意なこと・苦手なことについての 気付き・受け入れ がしやすかった
アセスメントに基づき、面談等で方向性について相談を重ねた	●体調面や業務スキルの部分から、まずは一般就労ではなく、福祉就労から始めることを検討するきっかけとなった
福祉就労の見学に同行した	●福祉就労の現場への イメージ ができた

＜その後＞

B さんは「まず今の自身にできることから社会経験を積む」と決断。
福祉就労から始める必要性を感じた一方で、自宅近くにある福祉就労の現場に良いイメージが無かったため、ためらう気持ちがあった。ただ、支援者同行で見学などをする中で、福祉就労への良くないイメージが払拭され、前向きに福祉就労を選択された。
現在、B さんは福祉就労の現場で、日々経験と努力を積み重ねている。
電車の車掌になるという夢は「人生の最終目標」として、大切にしている。



B さんの声

「色々な不安のために躊躇していたことにも挑戦すると、さらに強くなれるかも、という気持ち」になっているように思います。
これらの気持ちを大事に、「本当の意味での結果に繋がるように」という気持ちでいます。



就労移行支援事業所の声

就労移行のサービス期間である 2 年間で、なんとか一般就労に繋がらないといけないという思いがありました。
はちどり会議の中で相談をし、その方の人生を考えて、あえてステップを踏んでいただくことが必要な場合もあると再認識できました。